

価格.comのデータを分析した最新トレンドをお届けする「価格.comレポート」

Android 勢との競合が激しくなるスマートフォン市場、2014 秋冬の陣

「iPhone 6」「iPhone 6 Plus」発売前日、消費者の反応速報！

2014年9月9日（米国現地時間）にアップルから発表された、「iPhone」シリーズの最新モデル「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」。9月19日（金）の発売日前日に向け、ユーザーの反応はどういったものか？を購買支援サイト『価格.com』のデータをもとにレポートしてお届けします。

■2014年9月9日、アップル「iPhone 6/Plus」を発表するも、ユーザーの興味を失いつつあるスマートフォンの新モデル

図1：「スマートフォン」カテゴリのアクセス推移（過去3か月）

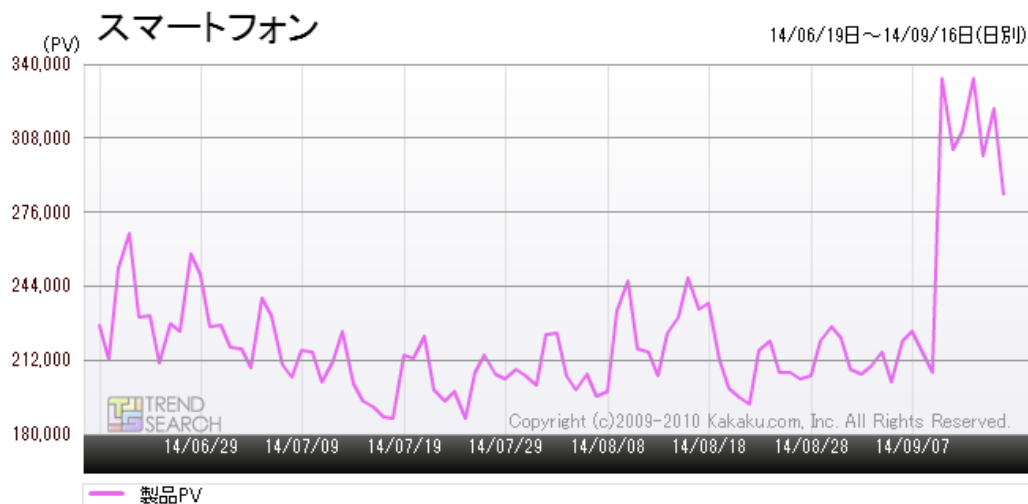


図1は、「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」が発表された9月10日（日本時間）を含む、価格.comの「スマートフォン」カテゴリのアクセス数を示したもので、これを見ると、「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」の発表によって、それまで21～24万PV/日ほどだったアクセスが、一気に31～34万PV/日ほどに跳ね上がっている。

「iPhone」シリーズの新モデル発表に対して、ユーザーがかなりビビッドに反応していることが見て取れる。

ただし、このPVトレンドももう少し長い尺で見ると、異なってくる。図2は、価格.comの「スマートフォン」カテゴリの、ここ2年間のアクセス状況を示したもののだが、9月10日の「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」の発表でアクセスは上向いたものの、カテゴリ全体では、ほぼ右肩下がりとなっている。たまに突出して上に伸びているのが、注目モデルの発表時期となるが、たとえば、昨年2013年9月の「iPhone 5s/c」が発表された次期と比較しても、絶対的に少なく、週間で80万近い開きがある。2年前の10月の「iPhone 5」発表時と比べると、さらにその差は大きく、今回の「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」のアクセスの倍以上に達する。

もちろん、これは、アップルの「iPhone」だけの問題ではなく、スマートフォン自体の新モデルに対する興味がユーザーから徐々に失われていっていることが大きい。そういう意味で言えば、スマートフォン市場はすでに成熟を迎え、話題性としてはシュリンクしつつある市場ということでもある。人気製品の「iPhone」といえども、その状況を覆す力はすでになくなっていると言ってもいいだろう。

図 2 : 「スマートフォン」 カテゴリーのアクセス推移 (過去 2 年間)

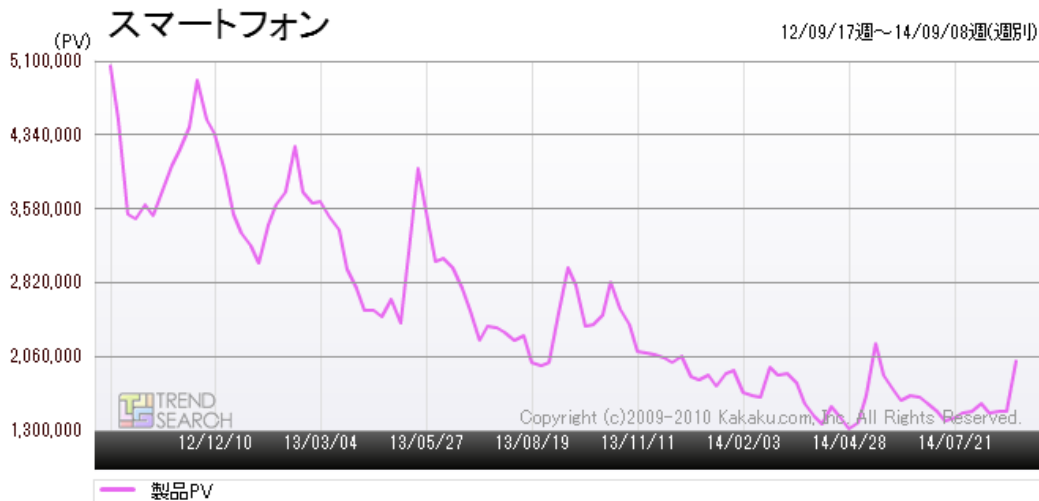
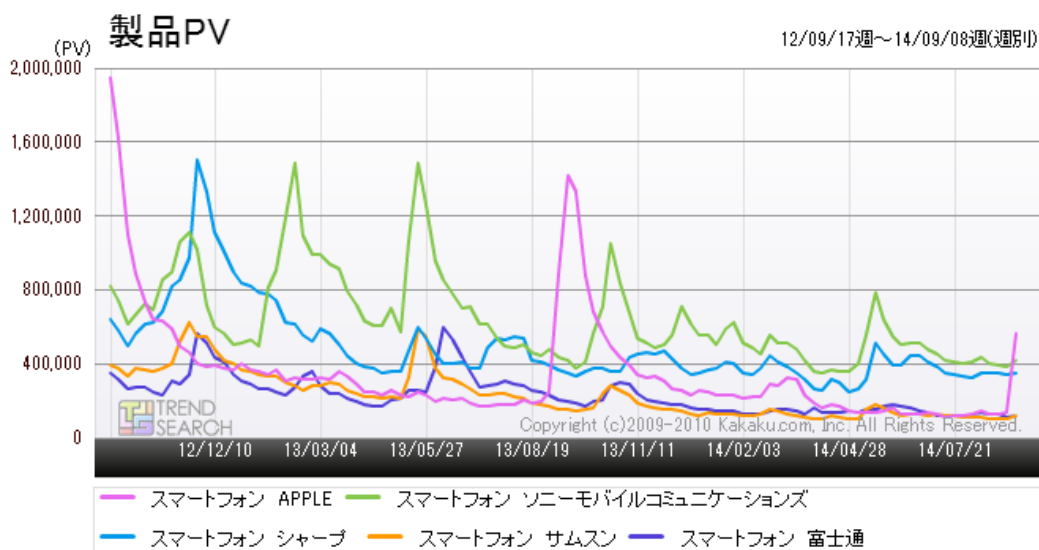


図 3 : 「スマートフォン」 カテゴリーにおけるメーカー別アクセス推移 (過去 2 年間)



では、アップルの「iPhone」と、Androidスマートフォンとの関係性はどのように変わってきているのだろうか。それを示すのが、図 3 だ。これは、過去 2 年間における、主要 5 メーカーのスマートフォン製品の PV の推移を示したものだ。

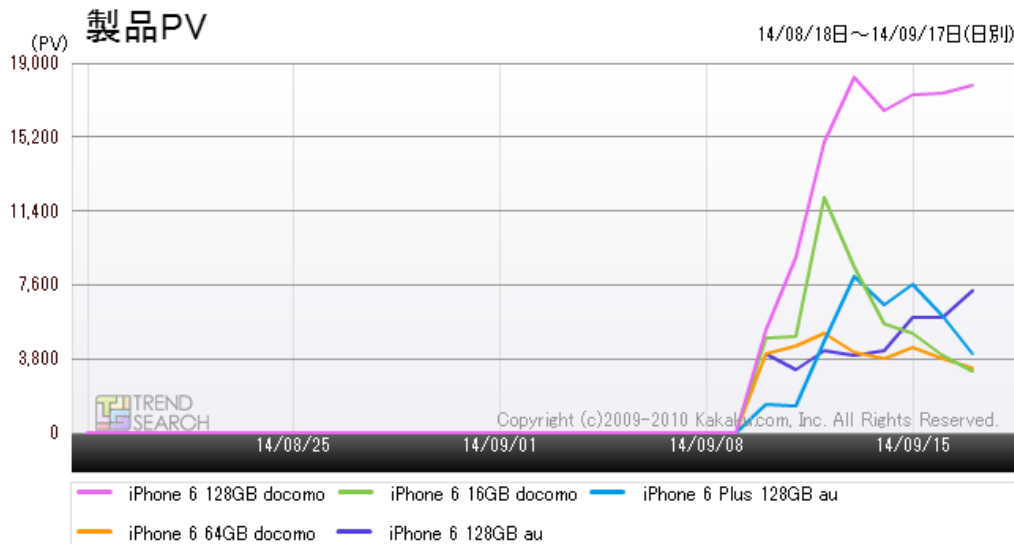
これを見ると、ちょうど「iPhone 5」が発売された 2 年前の 9 月時点ではアップルがダントツだったが、その年の年末には、Android 勢のシャープやソニーが急激に伸びており、その後 1 年間、アップルの PV シェアの上を行ってい

たことがわかる。その後、昨年の9月に「iPhone 5s/c」が発表されると、また瞬間的にアップルのPVシェアが伸びるが、1か月ほどで収束して、やはりソニーやシャープに抜かれている。今回の「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」の発表でも、一時的にアクセスが急伸長して首位を奪還しているが、例年のトレンドから言えば、この後、1か月ほどで収束するのではないかとと思われる。

これらのデータから見てくるのは、まずスマートフォンの新モデル自体が徐々にユーザーの興味を失いつつあること、そして、アップルの「iPhone」も、以前のような注目を集めるには至らず、競合となるAndroidスマートフォンとの競合関係がますます激しくなっているという現状だ。特に、今回の「iPhone 6」では大きなハードウェア的なサプライズがなかったこともあり、昨年あったNTTドコモの新規参入のようなトピックもないことから、話題性としては例年以上に盛り上がり欠ける展開となっている。

■ 話題の中心は画面サイズ 4.7 インチの「iPhone 6」。キャリアは NTT ドコモが中心

図4：「iPhone 6」シリーズの人気モデル上位5製品のアクセス数推移



では、今回発表された「iPhone 6」シリーズの中では、どのモデル、そしてどのキャリアが話題となっているのだろうか。図4は、「iPhone 6」シリーズの人気モデル上位5機種へのアクセス推移を示したもののだが、もっともアクセスを集めているのは、NTTドコモ版の「iPhone 6」（128GBモデル）、次いで「iPhone 6」（16GBモデル）となっている。画面サイズ5.5インチの「iPhone 6 Plus」に関しては、auの128GBモデルがトップだったが、上位5モデルの中では1製品がランクインすることどまっている。

今回の動向でおもしろいのは、128GBモデルというハイエンドモデルの注目が高い点だ。これまでの「iPhone」シリーズでは、もっとも安価な16GBモデルの人気が高い傾向が強かったが、今回の「iPhone 6」および「iPhone 6 Plus」については、ハイエンドモデルの128GBモデルの人気が高い。従来からの「iPhone」ユーザーが乗り換えるケースが多いためか、「16GBではメモリーがいっぱいになってしまう」というクチコミに見られるように、どうせ乗り換えるのならメモリー容量の大きいハイエンドモデルを狙うというユーザーが多いようだ。

図 5 : 「iPhone 6」と「iPhone 5s」の人気モデルでのアクセス数比較

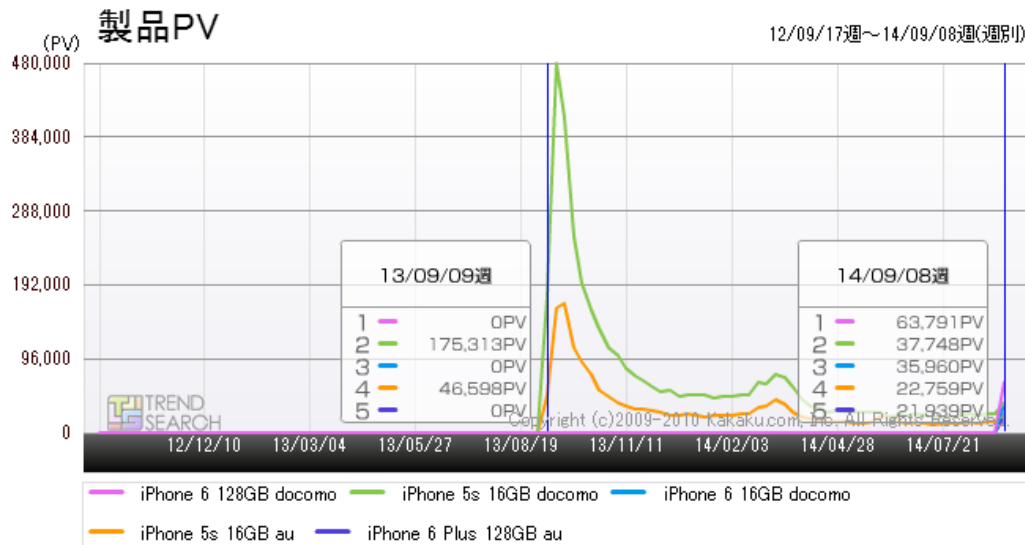


図 5 は、昨年発売の「iPhone 5s」の人気モデル（NTT ドコモ/au 16GB モデル）と、今回の「iPhone 6」の人気モデル（NTT ドコモ 128GB モデル/16GB モデル）および「iPhone 6 Plus」（au 128GB モデル）との、製品発表直後の週のアクセスを比較したものです。昨年の「iPhone 5s」では、NTT ドコモ版の 16GB モデルが 175,313PV、au 版の 16GB モデルが 46,598PV となっているのに対し、今年も NTT ドコモ版の 128GB モデルが 63,791PV、16GB モデルが 37,748PV と、かなり開きがあることがわかります。今年の場合、ディスプレイサイズの異なる「iPhone 6」と「iPhone 6 Plus」の 2 機種が発売されることもあって、アクセスが分散していることも考えられるが、注目度だけで見ると、総合でも昨年の PV を超えることはなさそうです。

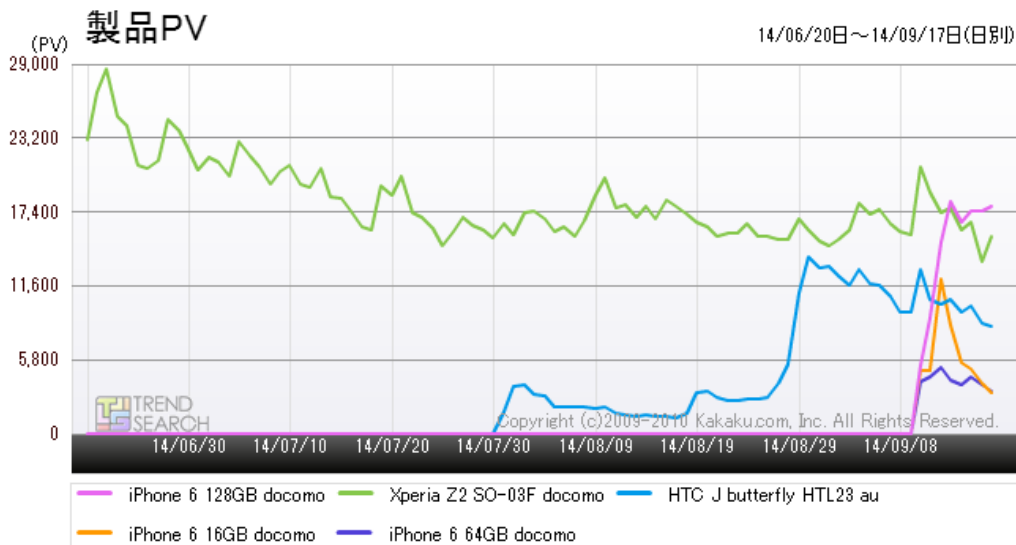
なお、通信キャリア別では、昨年より「iPhone」を取り扱い始めた NTT ドコモが圧倒的にアクセスを集めている状況となっており、次いで au、最後にソフトバンクという順番で、ほぼ、通信キャリアのシェア通りの展開となっている。以前であれば、「iPhone」取り扱いの先行メリットが大きかったソフトバンクが筆頭で、次いでほかのキャリアという順番だったが、3 大通信キャリアが「iPhone」を取り扱って 2 年目となった今では、こうした先行メリットもすでになくなっていると見てよさそうです。

■大きな競合となるのは、ソニー「Xperia Z3」か？

「iPhone」の話題性が以前ほどないことは明らかだが、その裏には、競合となる Android スマートフォンの進化と普及がある。以前であれば、ユーザーインターフェイスやアプリの充実度で「iPhone」の優位性は揺るがなかったが、今やそれほどの差はなく、むしろ、Android スマートフォンのほうが高性能・高機能になっているため、多くのユーザーが Android スマートフォンのほうを使うようになっているのだ。

図 6 は、2014 年 9 月 17 日時点における、価格.com の「スマートフォン」カテゴリでの人気モデル 5 機種のアクセスを比較したものだ。これを見ると、「iPhone 6」シリーズの中でもっとも人気の「iPhone 6」（NTT ドコモ・128GB モデル）が、アクセスでは現時点で 1 位となっており、ベスト 5 位内には、NTT ドコモの 64GB モデルと 16GB モデルもランクインしているものの Android スマートフォンの 2014 夏モデルとして人気を博してきた「Xperia Z2 SO-03F」（NTT ドコモ）や、「HTC J butterfly HTL23」（au）に対して、さほどのアドバンテージはなく、ほぼ同数程度になっている。

図6：「スマートフォン」カテゴリにおける人気モデル5製品のアクセス推移



「iPhone 6」はメモリー容量によって3タイプのモデルがあるので、人気分散してしまっている点は加味しなくては行けないが、仮にここに上がっているNTTドコモ版の3タイプを合算しても、「Xperia Z2 SO-03F」の発表時レベルのアクセスにとどまる。以前は、発表時に爆発的な注目度を集めていた「iPhone」シリーズであるが、もはやそこまでの注目度はないと見ていいだろう。

これから、Androidスマートフォンの秋冬モデルが続々と発表されてくる予定だが、そうなると、おそらくまたAndroidスマートフォンの新モデルに、も大きく差を付けられる形となりそうで「iPhone 6」の注目度は来月10月上旬には早くも失速する恐れすらある。

なかでも、今年の秋冬のスマートフォン商戦で「iPhone 6」あるいは「iPhone 6 Plus」の大きなライバルとなりそうなのが、ソニーが開発した「Xperia Z3」(画面サイズ5.2インチ)の存在だ。まだ国内での正式発表がないため、価格.comの製品データベースにも登録がないが、夏モデルの「Xperia Z2 SO-03F」がここまで高い人気をキープし続けていることを考えると、その後継モデルの「Xperia Z3」は、かなりの人気を呼びそうだ。ちなみに、「Xperia Z3」は、従来のNTTドコモとauという2キャリアに加え、この冬からはソフトバンクからも発売されると見られており、そうなると、通信キャリア間でのハンディもなくなる。さらに加えて、画面サイズが4.6インチのコンパクトモデル「Xperia Z3 Compact」も発売されると見られており、まさに、画面サイズ4.7インチの「iPhone 6」と、5.5インチの「iPhone 6 Plus」の両方に対して、手強いライバルとなりそうな気配だ。

- 価格.com スマートフォンカテゴリ：<http://kakaku.com/keitai/smartphone/>
- 価格.com スマートフォン 人気ランキング：http://kakaku.com/keitai/smartphone/ranking_3147/

- 価格.com トレンドサーチ：<http://kakaku.com/trendsearch/>

価格.com ユーザーの行動・クチコミデータから市場状況を分析することに特化したマーケティングサービス

【価格.com サイトデータ】（2014年6月末現在）

月間利用者数 4,483 万人、月間ページビュー 8 億 6,703 万 PV、累計クチコミ件数約 1,800 万件
＜利用者内訳＞ PC：2,724 万人 スマートフォン：1,706 万人 フィーチャーフォン：53 万人

【株式会社カカクコム 会社概要】

所在地： 東京都渋谷区恵比寿南3丁目5番地7 恵比寿アイマークゲート

代表取締役： 田中 実

企業情報： <http://corporate.kakaku.com/>

事業内容： サイトの企画・運営

当社運営サイト一覧： <http://corporate.kakaku.com/company/service.html>

データを引用・転載いただく際のクレジット表記について

本レポートの引用・転載の際は、必ずクレジットを明示くださいますようお願いいたします。

例) 「価格.com レポート」より、「価格.com」のデータ分析によると…など